

ち ころも  
地・衣

黒川岳



唐突ですが、地衣類をご存知でしょうか。

個であって個ではない、藻類と菌類の共生体として存在している地衣類（詳しくはインターネットや図鑑で調べてみてください！）。ここ最近、私は地衣類の不思議な生態が気になって仕方がありません。

このワークショップを通して、地衣類を見つめながら私たちが「地の衣」たり得るか？（あるいは何か別の形になり得るか？）自らの体を使って一緒に試行錯誤してみましよう。





参考：地衣類の例（パタゴニア／アタカマ砂漠にて。黒川撮影）

このワークショップでは自らが地衣類になりきり、自分たちの体を用いて地衣類の生態や名前の訳の分からなさに向き合ってみます。どうやったらいいか分からないって？大丈夫です。まだ誰も分かっていませんので、ワークショップ内で考えてみるるところから始めましょう。

ワークショップでは、主に以下の2つの工程に取り組みます。

1. 「私が地衣になる」ことについて考えたこと、想像したことを書き出して、参加者同士で共有する。(例：「私が衣」とはどういうことか、自分の想像したことを書く。／過去にテーマと関連していそうな経験をしたことがあるので、思い出して書いてみる。等)
2. 「私」を「地衣」に置き換えて、実験を試みる。(例：自分が菌類、友人が藻類の設定でどこかの場所に行き、「地の衣」を体現してみる。／自分がある場所で何かをしている様子を「その時私が地衣だとしたら」という視点で考えてみる。等)

日数は最短1日から長期間に渡るまで、ワークショップをやりたい方と相談の上決定します。日数に応じて内容も追加等調整していきます。日数が多いと上記2.の準備や実践に多くの時間を割くことができます。





参考までに2.の例としていくつか考えたものを挙げてみました。=それが「地・衣」的振る舞いだろうか？を考えながらやってみる例。(石に寝そべり、誰かが腹の上で座禅をする／日陰で犬と昼寝する／魚が釣れるのを待つ)

「地の衣」？「地と衣」？「地が衣」？  
「地も衣も」？「地で衣」？  
「地に衣」？「地または衣」？  
はたまた...

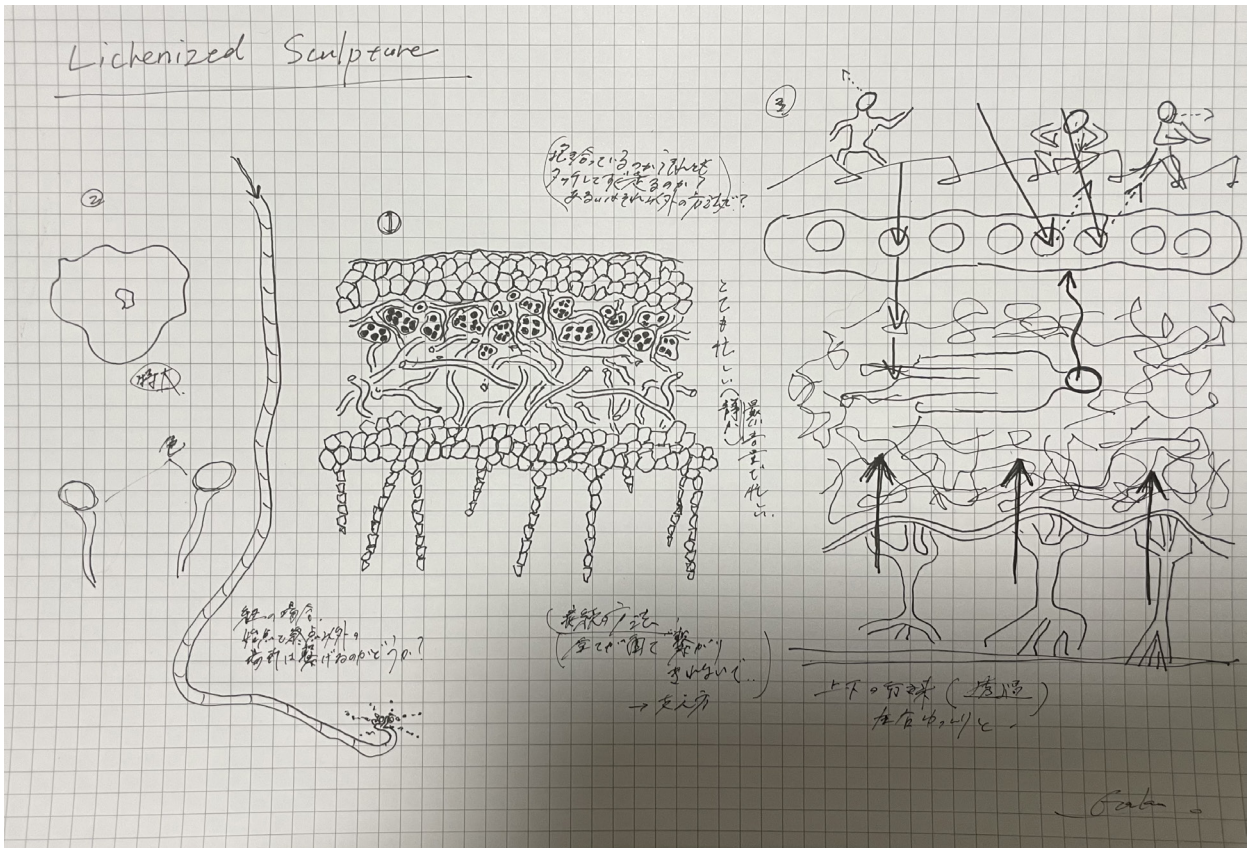
地衣類は、その個体自体が他との共生関係の上で成り立っている点で面白いと思うのですが、その名前が日本語で「地衣類」と書き表される点も興味深いです。地が衣をまとっているなんて、なかなか詩的な表現だと思いませんか。

しかしこれ、一見イメージしそうな「地の衣」という意味で正しいでしょうか。

いやいや、もしかすると「地が衣」の意かもしれませぬ。あるいは「地と衣」かもしれぬし、「地も衣も」とか「地ではなく衣」だってあり得ます。これらの選択肢のどれをとっても何がどういふ状況なのか訳が分からない...。なんて可能性に満ちた名前なんでしょう！

そして、もしこの地衣類の生態や名の表すところについて想像するために、我々人間が地衣類になってみるとしたら...？その時私たちは、どこで誰と、何をしているのでしょうか。





ワークショップ考案者は2024年5月～7月にノルウェーにて地衣類の研究と、それをもとにした作品制作を予定しています。  
 リサーチの成果もワークショップの内容に反映される予定です。(画像：「地衣化する彫刻」のためのドローイング)